



CHALLENGING SPIRIT

～ 海洋インフラを支える技術者たち～

vol.2

横浜港で進められている新本牧ふ頭の埋立事業。

完成すれば大型コンテナ船に対応した日本最大級の大水深18m岸壁(延長1,000m)を備えた高規格の国際コンテナターミナルとなる。

この日の工程は、大水深18m岸壁の本体構造を成す鋼板セルの据付作業だ。

千葉県富津で約半年かけて製作された鋼板セルは、直径24.5m、高さ26m、重さ350tの巨大な円筒。

富津から新本牧まで約3時間かけて起重機船で吊曳航された鋼板セル1函を水深23mの所定の位置に据え付け

る。許容誤差はわずか±20cm以内。

鋼板セルと起重機船の双方に、風、波、潮流などの自然外力が大きく作用する状況下でのセル据付作業は、極めて緻密で高度な技術を要する。

2021年に1函目が据え付けられ、2024年中に6函目が完了する見込み。

現場を指揮するのは小泉博之所長。この道35年の技術者だ。スケールが大きく、形に残る仕事にやりがいと誇りを感じるという。



撮影 / 文：西村尚己 アフロ(2024年10月3～4日撮影)

工事名：令和5年度 横浜港新本牧地区岸壁(-18m)(耐震)築造工事(その2)

発注者：国土交通省関東地方整備局

受注者：東亜・あおみ・大本特定建設工事共同企業体



＜プロフィール＞

西村尚己 /Naoki Nishimura

株式会社アフロのフォトグラファー(アフロスポーツ所属)。1994年、大阪大学大学院工学研究科修了後、運輸省(現国土交通省)入省。本省、北海道開発局、中部・近畿・九州地方整備局、下関市、中部国際空港㈱でインフラ整備に携わりながらアマチュアカメラマンとして活動。2016年、同省を退職し、アフロに入社。オリンピックをはじめ国内外のスポーツ撮影を中心に活動中。